

ドライブシミュレーターのご紹介



当院では自動車運転の再開を希望された脳血管疾患の患者様を対象に「ドライブシミュレーター」を使用し、認知・判断・操作など、運転に必要な技能の評価・訓練を行っています。



アクセラ
ブレーキ
ペダル付



多様なコース
選定が可能。

3画面で
より実車環境に
近い設定

★自動車運転支援の流れ

- ① 運転希望についての確認（患者様、ご家族様 双方の意向）
- ② 院内で評価の可否を検討
- ③ 机上評価：高次脳機能評価を数回行う
- ④ **上記をクリアした上で、ドライブシミュレーターでの評価・訓練を開始！**
 - 1) ハンドル・アクセル・ブレーキ操作・注意力の評価（基礎～応用まで）
 - 2) 市街地コース等の走行
- ⑤ 実車評価（※患者様の状況と必要に応じて実施）
- ⑥ 自宅退院後、主治医の診断書を持参し、公安委員会で最終判断



自動車運転には一見、運転技術面が重要と思われがちですが、注意力、判断力、予測、記憶等の高次脳機能が大きく関わっています。ドライブシミュレーターのように実際の運転に近い機器を使用する事で机上テストでは見えてこなかった注意力や判断力、予測、危機回避する為の反応、認知機能の状態が明らかになります。

また、患者様自身も現在の運転能力を確認する事ができ、運転再開に必要な助言や訓練を受ける事ができます。

メリット

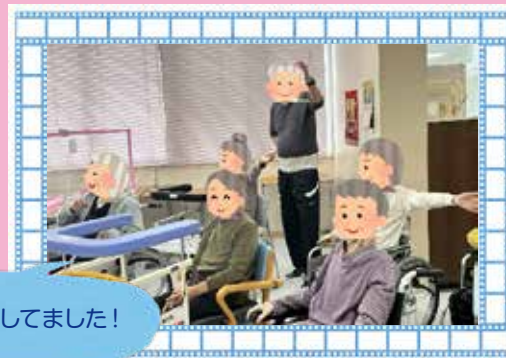


病棟レクリエーションの様子

当院回復期リハビリテーション病棟（3A病棟）では第1・3・4（水曜日）14:30～15:30に病棟食堂で病棟レクリエーションを行っております。主に体操・切り絵・塗り絵などを行っています。

レクリエーションは患者様の活動時間の拡大、ADLの向上、気分転換、ストレス解消、身体機能の改善、認知機能低下予防、心理的安定を目的としております。

一人でも多くの患者さんに楽しんでもらえるよう職員一同取り組んでおります。



うさぎのあみぐるみ



折り紙で作ったひまわり



折り紙のくす玉



塗り絵



ビーズで作ったポーチ



回復期リハビリテーション病棟協会 第45回研究大会 in 札幌



2025年2月21日・22日の2日間に渡り、札幌で回復期リハビリテーション病棟協会研究大会が行われました。当院リハビリテーション部より2名が発表致しましたのでご報告致します。



《演題》

馴染みの活動を通し情緒面に焦点を当て介入した結果、本人らしさを取り戻し活動の拡大に繋がった脳卒中重症の一症例

～作業遂行6因子分析ツール (OPAT6) を用いて～

内容

心原性脳塞栓症により臥床傾向となった症例に対し、作業遂行6因子分析ツールを用いて「やりたい作業」に焦点を当て介入した結果、活動意欲向上、趣味活動再開に至った症例を発表。

感想

今回初めて研究大会に参加させて頂き、改めて患者様ひとりひとりに合わせた関わり方が重要でそれについて考え続けることが大切であると感じました。今後は、今回学ばせて頂いたことを臨床で活かしつつ、積極的に学会へ参加し学び続けたいです。

作業療法士 丸山 夢果



《演題》

余命宣告をされたがん合併の脳卒中症例に対してDemandを考慮して理学療法介入を行い自宅退院を達成した症例

内容

脳卒中発症後にがん末期で余命1年を告知された患者様に対して、患者様やご家族様の希望である自宅退院にむけて情報を整理しチームで目標設定を行った。理学療法士としてリハビリ見学や介助指導を通して車椅子軽介助での自宅退院を達成した症例を発表。

感想

中途で入職し日が浅い中、初めて学会での発表の機会を頂きとても貴重な経験になりました。発表までの準備や他病院での取り組みなど多くの事を勉強させて頂きましたので今後の業務に活かしていきます。

理学療法士 諏訪 新



感染管理認定看護師のご紹介！

当院には、札幌市清田区内で唯一の感染認定看護師が在席しています。

感染管理認定看護師は、感染症対策の専門知識を持ち、効果的な感染対策を実践・指導する資格を持つ看護師です。医師、薬剤師、検査技師、看護師など多くの専門職とともに、**現場の状況を常に確認し、効果的な感染対策を実施**するなど、院内感染予防につとめています。提携している施設での感染対策相談や研修会も開催し、地域全体の感染対策にも尽力しております！

新型コロナウイルスが流行し始めてから、多くの対策が必要となり、その都度状況に応じた対応が求められるようになりました。これからも世の中と同様に、感染対策も随時変わっていくことでしょう。そのため、最新の知見を学び続け、病院内や地域に還元できるよう努めてまいります！



真栄病院看護部長
感染管理認定看護師
新妻 美鈴

～地域医療連携室だより～



第45回 回復期リハビリテーション病棟協会研究大会 in 札幌 において、「ソーシャルワーカーの予防的支援」に関する実践報告を行いました。高齢化や単身世帯の増加が進む中、病気の予防や健康支援を通じた地域づくりは、地域全体の健康水準を向上させるために不可欠です。本報告では、当院の取り組みとして、入院中の早期介入や退院後の生活を見据えた適切な支援（退院後の生活環境の整備や継続的な支援ネットワークの構築など）が再入院リスクを低減させることを示しました。また、定期健康診断や予防接種の実施にとどまらず、地域住民への疾患に関する基礎知識や制度の利用方法の啓発、孤立解消の支援、医療機関へのアクセス改善など、当院が取り組んでいる活動を紹介し、医療機関が地域づくりに積極的に関与していく重要性についても提起しました。本報告が、ソーシャルワーカーの実践の質の向上や地域づくりの一助となれば幸いです。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



※講演の様子

地域医療連携部 副部長 不動 宏平

おらせ

「ぽかぽか通信」のお届け方法の変更

面会制限後よりぽかぽか通信を入院費の請求書と共にご家族様へお届けをさせて頂いておりましたが、面会制限の緩和に伴い、**次号88号（秋頃発行予定）**よりこちらは中止し、面会制限前同様、**受付や各病棟に置かせて頂く事となりました**ので、ご来院の際には、ぜひ、お手に取ってご覧下さい。ホームページでもご覧いただけますので何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

いつも大変お世話になっております。4月も中旬を過ぎ、長かった冬から少しずつ春の訪れが感じられるような季節になりました。さて、今回のぽかぽか通信はいかがだったでしょうか。新しくなったドライブシミュレーターについてのお話や回復期リハビリテーション病棟でのレクリエーションの様子、患者様が制作した作品のご紹介、看護部長からのご挨拶、回復期リハビリテーション病棟協会が開催した第45回研究大会に関するご報告など盛りだくさんの内容となっていたと思います。日頃はあまり知っていただける機会が少ない院内での取り組みについて広報誌を通じて皆様にお知らせすることで、少しでも安心材料になればと思っています。また、院外での取り組みについてもご報告させていただくことで地域との繋がりについても知っていただく機会となれば幸いです。次回の発行は秋頃の発行を予定していますので、是非楽しみにお待ちいただければと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



医療法人 尚 仁 会

真栄病院

リハビリテーション科
内 科

TEL.011-883-1122

FAX.011-883-0111